



楽しく科学を体験！

7月28日（木）、稲荷山公民館で「夏休み子どもゼミナール」が開催されました。

午前は「木工教室」を行い、午後は屋代高校理数科の生徒から「音の科学」を学習し、未知の体験をしました。

特集 夏山ハイキング

《主な掲載記事》

- 特集 夏山ハイキング …… 2～3
- 夏休みの思い出 …… 4～5
- サークル紹介・わがまちの自慢 … 6
- リレーエッセイ …… 7
- もっと知りたいふるさと …… 8

特集

楽しかった 夏山ハイキング

～初めての日帰りハイキング。自然を満喫しました～

屋代公民館・戸倉公民館

屋代公民館

夏山ハイキングに

参加して

生萱分館 島田 孝

7月16日（土）、総勢36名が参加し、バス1台で屋代公民館主催の八千穂高原夏山ハイキングが実施されました。

当日の朝は雲行きが怪しく、八千穂高原は雨になってしまいか心配しましたが、ハイキングコースを散策中は薄日が差すほどでした。夕方、家に帰った途端に大雨が降り出したので本当にラッキーな一日になりました。

佐久穂町の八千穂高原自然園駐車場にバスが着いたのは午前10時30分ごろだったと思います。バスから降り、分館ごとに写真撮影をした後、自然園のトレッキングコースをそれぞれ自由に散策しました。

自然園は30分・50分・80分のコースがありましたが、生萱分館参加者7名は全員で50分の「青の小径コース」を散策しました。管理棟のゲートを通ってしばらく歩くと、右手に「飛竜の滝」が見えてきたので近付いてみると、八ヶ岳から流れてきた清流が、滝

つぽに落ちて舞い上がるマイナスイオンのミストシャワーを浴びることができました。散策路を進むと「もみじの滝」があり、さらに「もみじ橋」を渡り木立の中を歩きました。

少し明るくなってきたので、天を仰ぐと木の葉のすき間から木漏れ日が差してきました。爽やかな気持ちになって、小川のせせらぎを聞きながら行くと「遊亀湖」に着きました。さらに、左手にカツラの大木を見ながら進むと、太古の昔、八ヶ岳の噴火の際に流れ落ちた溶岩が冷えてできた岩山の中に、クマ穴も確認できました。また少し行くと、ヤナギランの群生地ではミツバチが花の蜜を集めてい



生萱分館の記念写真



青々とした青もみじやコケが涼しげな「もみじの滝」は紅葉も楽しみです

ました。管理棟近くの、小径のそばに新婚さんの鳴らす幸福の鐘があり、勝手に3回ほど鳴らして散策を終えました。「ロッジ八ヶ嶺」で昼食を済ませ、花木園を散策して、帰りのバスに乗りました。

帰路の道の駅で、地元のおばちゃんが作った特大の肉まんを夕食用に買って帰りました。

本当に満足のいく一日を過ごすことができました。



クマ穴がありました

戸倉公民館
神秘的な白駒の池

内川分館 中村ひろみ
上徳間分館 武井 芳子

7月24日（日）戸倉公民館主催の「白駒の池」へのハイキングに参加しました。

3年振りのハイキングもコロナ禍のため、感染予防を万全にして臨みました。ウキウキ気分を抑えつつもバスの中はまるで遠足気分！ 必ずマスク着用、会話は控え、飲食禁止を守りながら目的地に向かいました。

10時40分ごろ白駒の池に着きました。晴天に恵まれ絶好のハイキング日和で、駐車場は満車でした。

「白駒の池は『日本の貴重なコケの森』に選定されたスポットだよ」と、現地のガイドさんの説明を聞きながら大



太陽光の反射がきれいな白駒の池

自然の中へ。「日本3大原生林のひとつ」でもあるという原生林が連なり、その中に一歩踏み入れれば、この世とは思えない神秘的なコケの世界が広がっていました。国内に見られるコケの約4分の1の種類が自生しているそうです。ガイドさんのコケ愛に感動し、楽しい散策ができました。登ったり下ったり、たくさん歩きましたが、私たちより先輩の方々の颯爽と歩く姿に感心しました。手前味噌ですが、自作のお弁当がとてもおいしかったです！



小さなコケをルーペで観察、ガイドさんと周りました。

最後は、「マンズワイン小諸ワイナリー」でした。ワイナリー見学はコロナ禍のためできませんでしたが、広い日本庭園やぶどう畑を見学して、お土産にワインを買いました。戸倉公民館にバスが無事到着して、8時間の旅が終わりました。職員の方々、ご苦労があったと思います。楽しい一日、思い出をありがとうございます。



天気も良く笑顔でパチリ



ぴんころ地蔵にごあいさつ

第29回 戸倉文化祭

●会場● 戸倉創造館

開催日程

11月19日(土)

展示発表 11:00~16:00
舞台芸能 9:30~15:00

11月20日(日)

展示発表の部 9:00~16:00



問合せ先 戸倉創造館 ☎026-275-6700

第20回 更埴地区文化祭

●会場● 信州の幸あんずホール (更埴文化会館)

開催日程

11月12日(土)

展示発表 9:00~16:30

11月13日(日)

展示発表 9:00~16:00
舞台発表 10:20~15:45
謡曲の部 9:30~13:00
茶道の部 9:30~15:00

問合せ先 屋代公民館 ☎026-272-0234
埴生公民館 ☎026-272-0055
稲荷山公民館 ☎026-272-1009
八幡公民館 ☎026-272-1076

第51回 上山田文化祭

●会場● 上山田文化会館ほか

開催日程

11月5日(土)

展示発表 11:00~17:00
音楽の夕べ 15:00~17:00

11月6日(日)

展示発表 9:00~15:00
囲碁大会(千曲市総合観光会館) 9:00~16:00
青空市 9:30~13:30
(売り切れ次第終了)
舞台発表 10:30~15:00
図書リサイクルコーナー 文化祭期間中

*3年ぶりに開催予定であったふれあいのど自慢は新型コロナウイルスの感染防止のため取りやめ、代わりに昨年開催した「音楽の夕べ」第2弾を行う予定です。

問合せ先 上山田公民館 ☎026-276-5842

夏休みの思い出

屋代公民館

思い出になったわがやのプライベートビーチ作り

屋代小学校6年 吉里 倅心ゆきみ

私は、8月4日に行われた「わがやのプライベートビーチを作ろう！」に参加しました。プライベートビーチ作りとは、とうり明な箱（アクリルケース）に自分の好きな色の砂をつめていて、お花や動物などを置いて作るというものです。

最初の砂を入れるときに「失敗したらどうしよう」など、とてもドキドキしていました。でも先生が「最初に入れるときは勇気がいるよ。だけど一回入れれば、大丈夫だよ」と言ってくれたので勇気が出ました。そして、やっているうちに楽しくなってきました。自分の好きな色の砂を入れられてよかったです。私が工夫したことは2つあります。1つ目は「砂」です。海は青色の砂にして、ビーチは石

のような砂でボコボコ感を出しました。2つ目はかざり付けです。私は、海のところにはイルカを置きました。そのイルカがジャンプしているように表すためにしっぽの部分だけを砂につけました。

今年の公民館の行事に参加できてとてもうれしかったです。また参加したいです。



わがやのプライベートビーチができました！

三滝水生生物教室に参加して

東小学校5年 丸山 愛月あいち

千曲市の倉科にある三滝。私の大好きな場所です。ここで開かれた水生生物教室に参加しました。流れの静かな所の石の下にあみを入れ砂利をすくい、その

中に生物がいるか確認する作業をくり返し行います。なかなか生物が見つからず、悲しくなりました。何度もくり返していくうちに、サワガニを発見しました。今年もいて良かったと少し安心しました。その後も、サワガニやヘビトンボ、カワゲラなどを採取することができました。

その中に、今まで見たことのない生物がいました。「倉科の自然を守る会」杉本二三さんに聞いてみると、ハコネサンショウウオという生物だと分かりました。しっぽが長く、手足があり、カナヘビのような姿でした。こんな生物が水の中にあることが分かりビックリしました。

今回の教室で採取した生物は、きれいな水に生息する生物でした。私の住んでいる倉科の三滝が、きれいな水だと分かりうれしくなりました。



ハコネサンショウウオ見つけた！



目をこらして観察

殖生公民館 夏休み殖生子どもカレッジ

8月4日（木）に屋代高校と付属中学校の生徒が講師となり児童に「音の科学」の実験を行いました。実験の後は北信教育事務所の方の指導でニュースポーツを一緒に楽しみました。

初めての子どもカレッジ

殖生小学校4年 並木 大峻ひろたか
8月4日に「子どもカレッジ」が行われました。

まず、「音の科学」の実験というところで、ストローぶえを作りました。全く音が鳴らなかったので、ふき方を強くするように工夫したら音が出ました。次はドップラー効果について学びました。音の出るボールを

投げ、自分の前で音が変わるか、なぜそうなるか教えてもらいました。最後は「ガラッキー」と「ラダーゲッター」をやりました。「ガラッキー」は、円すいの形のボールを投げ、遠くの輪の中に入ったボールが相手のチームのボールをどれだけ多く囲めたか競うゲームです。ボールは重いので、力を入れないと進まないところがむずかしかったです。

「ラダーゲッター」は、ひもでつながっている2個のボールをはしごに向かって投げ、ボールがはしごにひっかかると得点になるゲームで、力加減がむずかしかったです。

今回、屋代高校生・附属中学校生が来てくれて、体験したことのない実験や運動ができ、とてもいい一日になりました。



「ガラッキー」を楽しく体験しました

子どもカレッジでの体験

屋代高校3年 小林 拓実

8月4日「夏休み殖生子どもカレッジ」に発表者として参加させていただきました。

高校生の発表内容は「音の科学」と「星」です。

「音の科学」では、グラスハーブやストロー笛で実際に音を出して体験しながら音の仕組みを学びました。「星」については蓄光シールで星を表現し、星座を学びました。

なかでもストロー笛はすごく楽しんでもらえて、「家でもやってみよう」という声も聞かれ、とても嬉しかったです。

高校生側の発表が終わった後、講師の土橋先生のもと、「ニューズポーツの「ガラッキー」と「ラダーゲッター」の体験をしました。参加者を4チームに分けて同じチームの小学生と高校生で声を掛け合い、楽しんで交流することができ、とても良い時間を過ごせました。

コロナ禍で様々な行事が中止となっている中、小学生と高校生がともに楽しみながら学ぶことのできる貴重な機会を与えていただきありがとうございます。

した。また次も参加したいと思っています。



シールで星座をつくったよ

稲荷山公民館 夏休み子どもゼミナール

7月28日(木)に社会福祉協議会との共催で開催しました。川西振興協議会の里山部会の方による木工教室、屋代高校理数科と付属中学の生徒による「音の科学」の実験を行いました。

夏休み子どもゼミナールに参加して

治田小学校3年 こし山 しおり

夏ゼミで、公民館に行ったら同じクラスの友だちもいました。はじめの会では「スイカ割り」はコロナでできません」とお話がありました。楽しみにしていたのでざんねんでした。

午前はイス作りをしました

た。むずかしかったけれど、ていねいに教えてもらったので、楽しくできました。

お昼は、テントでおにぎりを食べました。

午後は、屋代高校の「音の科学」のじっけんをしました。

さいごは、カブトムシをつかまえました。たのしい1日でした。

治田小学校3年 高野 純平

ばくは、子どもゼミナールに5年生の兄と2人でさんかしました。とても楽しみにしていたので、ワクワクして行きました。

まず、イスを作りました。木づちを使いくぎを打って、とてもいいイスができました。家で大切に使うと思います。

お昼はテントの中でおにぎりを3つ食べました。みんなで食べたのでとてもおいしかったです。

午後は、音の科学と星ざの授業を屋代高校と付属中学の人が教えてくれました。しん動のことや星ざのこと、ワイングラスのふちを指でこすって音を出すグラスハーブは、いい音がしました。夏の三角の星ざのせつめいはとても分かりやすく勉強になりました。帰りにカブトムシとシイタケをもらいました。本当に楽しい1日でした。

した。来年も行きたいです。ありがとうございます。



くぎを打って難しいな

八幡公民館 夏休み親子教室

八幡公民館

8月3日(水)、大池自然の家を会場に、夏休み親子教室を開催しました。午前中は展望台までの散策と輪投げやポッチャの体験をしました。展望台からは八幡地区は残念ながら山の陰になって見えませんが、遠くはエムウエーブでしたが、遠くはエムウエーブ



輪ゴムでしっかり止めています

まで見ることができました。午後は割りばし鉄砲とミサンガを作りました。割りばし鉄砲は、パーツによって長さの異なる割りばしを輪ゴムで止めて作ります。引き金があるので鉄砲のようです。完成後、各自が画用紙にモンスタや点数などを描いたのを作り、当てて遊びました。ミサンガはそれぞれが好きな色の刺繍糸を使って編みました。出来上がったものを腕に巻いて見せあうと、かわいいもの、かっこいいものなど、色の組み合わせに個性があり、その人らしさが表現できていました。

千曲高原の涼しい風が吹く中で、親子でゆっくり過ごす一日になったようです。



できあがったミサンガ



ねらい打ち。あれ?どこへ飛んだ?

サークル紹介

ちくま手話サークル

殖生公民館 柄澤 利行

ちくま手話サークルは、今から51年前、1人のろう者と2人の健常者から活動が始まりました。

3人は同じ会社の同僚で、お互いにコミュニケーションを取りたいと思い、ろう者の1人が手話の先生となり、毎週休みの日に集まって勉強したのがきっかけで現在に至っています。

その頃のろう者とのコミュニケーションは、筆談が主であり、手話は世の中に知られておらず、手話を使うと特異な目で見られました。

時代は変わり、手話は「第3の言語」として世界中の人々から認められました。ろう者とのコミュニケーション手段として手話が広がり、ろう者への理解を深めようという人が増えてきました。

手話の学習会は、毎週火曜日の夜7時30分から殖生公民館、毎週木曜日、10時30分から千曲市戸倉福祉センターで、手話の学習会を行っています。

ます。

また、ボーリング大会、里山ハイキング、クリスマス会など、ろう者とサークル会員との交流会を実施しています。手話を使ってコミュニケーションがとれたときの喜びは最高です。

興味のある方は、一度気軽に体験や見学にお越しください。



里山ハイキング

みんな笑顔で (小川村：左)



電車での楽しい会話 (湯田中：右)

習字クラブ 硯

八幡公民館 春原 美恵子

私たち習字クラブ硯は、八幡公民館成人講座「大人の習字教室」を終了した熱心な生徒が集まり、杉浦玉雪先生のご指導のもと、令和3年度より発足したクラブです。

毎月第2・4火曜日午後1時から2時間、一人ひとりの進

度に合わせ、先生のお手本に集中しながら書いています。「王羲之」「般若心経」など書道の基本となる書を書

しながら、昔の字体からの変化と書のもつ意味を知り、当時の時代背景に想いを馳せるときもあります。

3月の公民館発表会には、1人1作品を飾ります。1年間の努力、上達を見てもらう大事な場です。

近くの公民館でひととき、精神を集中できる場があり、そのような場が今の世の中には必要ですね。

先生の興味深いお話と楽しく優しいご指導で、これからますます続けていきたいです。



一字に精神を集中



1年間の努力、上達ぶりを見てください

特集

わがまちの自慢

若宮、羽尾、須坂、上徳間、内川、千本柳財産区 財産区議長 塚田 茂雄

当財産区は千曲市に残るただ一つの財産区です。冠着山の頂上を含む北斜面360段、JR篠ノ井線姨捨駅周辺のほぼ上全部を所有しています。

財産区とは、市町村の一部地域(住民)が特定の財産又は公の施設を有することにより一定の既存利益を維持する権利の保全を目的として、地域とそ

の地域内の全ての住民を構成要素とする地方自治法に認められた特別地方公共団体です。財産区の歴史は古く、江戸時代以前から農耕を中心とした農業用溜池や入会林野等の村民総有の財産が財産区の母体であるといわれています。江戸時代、千曲川右岸の上徳間・内川・千本柳地区は、松代藩領でした。寂時・戸倉地区の東側の山は天領であり、こちらの山への入会権はありませんでした。山林の下草は、薪炭であり農

耕馬の餌であり、農地の肥料で、この広大な財産区の山でも地域住民の需要に足りず、坂北村の山林の一部も借りていましたが近年返却しました。

現在の運営は財産区議会の決議に基づき民主的に行われています。運営の主は木材生産です。計画的に搬出間伐を行うとともに、より高品質な木材を生産するため、積極的に区有林内の下草刈り、幼齢木の保護を行っています。

今年、7月1日(金)、「森林の里親契約調印式」が長野県および当財産区の管理者である千曲市長の立会いのもと、大池自然の家で行われ、「生活クラブ生活協同組合」と森林の里親契約を締結しました。

これは県が進める「森林の里親促進事業」によって森林を所有する地域と環境活動に熱心な企業が連携して森林づくりに



長野県森林の里親促進事業に参加



枝打ち作業中

取り組みことができるよう、県が仲介役となって「森林の里親契約」を締結する制度です。

当財産区では財産区有林の一部を同組合から資材や労務の提供を受けて、令和元年より森林の整備活動を行っています。主にニホンジカの食害の被害を防ぐため、協同で幹にネットガードをつける撫育作業です。おかげで食害等の被害を防ぐことができます。

今後でもできる限り同組合から森林育成や環境保全の取組みをサポートいただき、森林整備に役立てていきたいと考えています。

森林は木材生産だけでなく、水源供給、CO₂抑制、広く人々の健康増進の場も提供しています。近年冠着山の左肩部の「ぼこ抱き岩」は岩場登りの人気スポットとして注目されています。

JR篠ノ井線姨捨駅は、明治33年11月1日に開業しまし

認定をうけました。

姨捨駅は日本三大車窓の一つで、上りホームからは善光寺平が一望でき、夜景も有名です。また、姨捨の棚田は「田毎の月」と呼ばれ、古くから月見の名所としても知られています。また、令和2年6月19日には日本伝統文化の「月見」をテーマとした「月の都」として文化庁より日本遺産の認定をうけました。

緑綬褒章受賞

姨捨楽生学園会長 宮坂 武夫

今年4月29日、姨捨楽生学園会は、長年の姨捨駅環境美化奉仕活動により内閣総理大臣より緑綬褒章を受賞しました。



当財産区に断りなく、信仰の山でもある岩場に勝手にハーケンを打たれていることには、忸怩たる思いもありますが、登山道整備も境界確認、区有林巡視と併せて行っています。

た。勾配がきつくD51型蒸気機関車の水補給のために創られた駅で、スイッチバックの駅としても有名です。しかし、時代の流れとともに昭和47年3月に無人駅となっていました。

無人駅の手入れが行き届かない状態を回避するため、平成5年に地元老人会「姨捨楽生学園」による駅清掃奉仕活動が始まりました。管理駅長と定期的に打合せを行いながら、姨捨楽生学園の事業計画に奉仕活動やイベントを取り入れ、現在に至っています。

活動の内容は、駅舎・待合室・トイレ・ホームなどの清掃、除草、植木・花壇の手入れ、道路側溝の泥上げ、駅前広場・周辺の環境美化保全などです。この今までの地道な活動が認められ、今回の受賞となりました。

現在18名で活動していますが、今後も体の続く限り、仲間とこの活動を続けていきたいと思っています。



駅周辺の清掃をしています

◆◆ 受賞歴 ◆◆		
平成19年 3月16日	感謝状	JR東日本旅客鉄道
平成22年 8月19日	感謝状	長野鉄道事業者防犯協議会 長野県警察本部 (連名) (駅美化、駅機能発展)
平成22年10月14日	感謝状	JR東日本旅客鉄道
平成29年10月14日	表彰状	北陸信越運輸局
令和元年 9月1日	表彰状	千曲市 (生活環境功労)
令和2年10月14日	表彰状	国土交通大臣 (鉄道駅施設美化奉仕活動)
令和4年 4月29日	緑綬褒章	内閣総理大臣 (環境美化奉仕活動)



緑綬褒章状を受賞



第1回実行委員会の様子

この日は各公民館から選出された実行委員が、正副委員長を決定し成人式当日の運営や冊子編集等の役割分担を決めました。

それぞれが、仕事や学業に忙しい中、成人式がみんなの良い思い出になるよう、実行委員の皆さん、がんばってください。

8月30日(火)、八幡公民館において、第1回千曲市成人式実行委員会を開催しました。今年4月1日の民法一部改正に伴い、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。千曲市ではこれまでどおり20歳を対象に成人式を開催します。

成人式

実行委員会開催

※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

もっと知りたいふるさと

88 稲荷山の境界紛争

今から64年程前の安政時代、稲荷山と杭瀬下・新田との境界紛争があり、稲荷山の敗北の結果、一部が野高場の地名で残ったという歴史がある。

その当時の千曲川は、現在のように堤防が完備されておらず、毎年洪水が発生し、本流は定まった形ではなかった。そのため農地が移動し、村境紛争が絶えなかつたようだ。

平成17年「ちようま第25号」に掲載の宮澤芳己氏の論文「稲荷山と杭瀬下・新田との境争いによる野高場」によると、安政3（1856）年、2月には大きな境界争いとなり、稲荷山では幕府寺社奉行所へ出訴している。その内容は、



千曲川の堤防に沿って南北に長い野高場(左側)

「稲荷山の千曲河原の農地を杭瀬下・新田の者達が千曲川を越えて勝手に耕作している」

という趣旨のものである。

この辺の状況をさらに掘り下げた資料によると、野高場は千曲川の中州であり、杭瀬下村と新田村の人々が船で千曲川を渡り耕作をした「地割慣行土地（水害常襲地帯で水害の危険を分散するため農地を集落共有地としさらに団地に分け、持分権を持った人が割り当てられた共有地を耕作した共有地制度）であった。

当時、地番の決め方は冠着山・飯綱山・妻女山を見通して方位を定めたようだ。

安政5（1858）年3月より寺社奉行吟味物調役が現場検地に出張して来たが、さらに訴状では

「これは貞享年間（1684～1687年）八幡村との境界争いの時、御裁許の絵図面にも明らかであるように、冠着山より唐猫明神の森を見通した線が昔からの境で在ります。何分杭瀬下・新田の百姓を止めさせてください」とある。

この検地に際しては、総人数37人という前代未聞の大掛

かりなものだったようで、検地役人の滞在宿舎は、杭瀬下・新田村の色部義太夫宅であった。測量中の役人の用便は一般人足とは違い、体面を保つため移動便所を運ぶ役割の人もいたようだ。

検地は稲荷山の平坦地は勿論のこと、篠山を始め横手山・田原山・佐野山の明細等まで桑原村より提出を求めたり、文化9（1812）年の稲荷山村対杭瀬下・新田村境議定書を参考に、現在の治田町旧道の八幡往来から東へ10間のところに一番杭を打つ等して綿密に行ったことが記録されている。

この境界紛争は、徳川幕府直轄の天領の杭瀬下・新田と上田領の稲荷山ということも影響したものと思われるが、結局は稲荷山村の全面敗訴となり、千曲川の西に肥沃で広大な杭瀬下村野高場が存在することとなった。

その後、昭和の時代になり長い間孤立地で隔離状態に耐



新たに造られた高木源六郎の歌碑

えていた野高場の住民は、杭瀬下村と植生町の合併の際に分村陳情に踏み切った。

しかし、それぞれの意見の一致が見られず厳しい状態となっていました。

そんな中ではあったが、林虎雄県政下、知事の勧告に基づき昭和30年9月25日の植生町議会において正式に境界の変更が議決された。

さらには、この野高場は昭和34年6月1日、更埴市誕生と共に大字杭瀬下より分離独立して大字野高場となり、行政区は稲荷山地区に編入され現在に至っている。

もちろん、そこに住む稲荷山1400戸、4200人の住民と野高場270戸、680人の住民は大字は分かれていても、一体となって地域の発展に尽くしていることは言うまでもない。出訴により検地に出



野高場の位置図

編集後記

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症は、4回目のワクチン接種後も未だ収束まではありません。それでも、御開帳、御柱祭・花火大会・各種公民館活動も工夫をしながら復活した。しかし、加えて物価高騰・台風が発生等が控えている。生きていくだけで、青息吐息である。

京都龍安寺の茶室の蹲踞に「吾唯知足」の有名な禅語が刻まれている。戦争を体験した父母の世代は、とても我慢強く、足るを知る人々であった。先人が守ってきた平和な日本に生まれたことに感謝しつつ、ささやかな幸せに敏感でありたいと思う。

(上山田 M)